

第 10 森林の整備その他林業の振興との関連に関する現況及び見通し

1 林業の概況

本市の森林は、林産物の供給という経済的機能よりも、むしろ自然環境の保全、災害の防止、保健休養の場の提供等、公益的機能の面においてより重要な役割を果たしている。森林面積は、9,736ha で、土地面積は 51%を占めており、その 99%に当たる 9,677ha が民有林である。民有林の内訳は、私有林 7,673ha、公有林 2,004ha となっており、私有林の 82%が個人有林である。

民有林の林種別面積は、人工林 2,719ha、天然林 6,569ha、竹林 252ha、その他 137ha で、樹種は人工林で針葉樹が 2,100ha、広葉樹 619ha、天然林では針葉樹が 906ha、広葉樹が 5,663ha となっている。

樹齢構成は、10・11 齢級が 22.4%、12・13 齢級が 30.4%と高く、このランクが全体の 52.8%を占めている。4 齢級以下の保育対象林は 2.5%である。林道密度は 6.17 で、県内では比較的高い。

森林組合の状況は、平成 31 年度の広域合併により、山口県中央森林組合となっている。組合員数 8,691 人、組合所有森林面積 55,951ha、常勤役職員 25 人、作業班員 48 人となっている。また、生産森林組合は 1 組合あり、組合員 132 人で組合経営森林面積は 210ha である。

2 農業振興と林業振興の関連に関する現状と問題点

本市の林地の生産性は低く、民有林の多くは自然成長にまかされている状況である。2020 年農林業センサスでは農林業経営体 718 経営体に対して林業経営体は 7 経営体となっている。これは、農林業全体の 1%以下である。

以上のような現状で、本市においては林産物の農業資材・施設としての利用等、農業と林業の有機的な連係について体系化されたものはない。森林施業における造林も年々減少している状況である。また、林業振興についての意欲は総体的に希薄である。

3 林業の振興に関する諸計画の概要

近年、都市化の進行により、農地、山林の宅地化が進み、これまで防災上大きな役割を果たしてきた自然地の防災空間を減少させている。一方、経済社会の成熟化に伴い市民の森林に対する要請は、多様化・高度化してきている。

これらの現状を踏まえ、今後引き続き、松くい虫の伐倒駆除とともに林道網の整備、保育事業等森林整備を継続的に推進し、森林資源の保全を図っていく必要がある。